（別紙4）　　令和　2　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2193300098		
法人名	合同会社カーム		
事業所名	グループホームかんまち		
所在地	岐阜県飛騨市古川町上町459番地1		
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2193300098-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町３丁目７番地　尾関ビル
訪問調査日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた家に近づけるよう古民家を改修し、落ちついた雰囲気のホーム創りを目指しています。地域の景観に溶け込んだ建物同様、地域の方との交流を大切にし、入居者一人ひとりがその人らしく暮らしていけることを目指しています。また、今年の春、同じ敷地内にのグループホームが新設し、入居者同士での交流が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、古民家を改修したホームであり、廊下と食堂兼居間の床が畳敷きとなっている。利用者にとって馴染みであった畳の生活を残し、障子、鴨居、軒先、縁側等、昔ながらの景色がそこにある。職員は、利用者が畑仕事や食事づくり、掃除、洗濯物たたみなどの役割を持って暮らせるよう支援し、本人がやりたいこと、出来る事を主体的に行えるよう支えている。敷地内には、今年3月に同法人の新しいグループホームが開設され、二つの事業所で職員も相互に協力し合い、新型コロナ感染予防対策に努めながら、利用者の笑顔に繋がるよう支援に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔あふれる施設になるよう毎日の理念を音読し、職員の意識を高めている。	代表と職員が話し合い、利用者の為に自分たちが行うべき実践を3項目に集約し、それを理念としている。居間の目に付き易い場所に理念を掲示し、毎朝、職員と利用者が共に唱和し、職員の意識化だけでなく、利用者への宣言にもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近所へ散歩へ行き近隣の方と挨拶やお話もしている。また、近所の方から野菜を頂いたり区長から市報など届けていただくなど地域の方が出入りしている。	自治会長と民生委員が近隣住民であり、広報誌の配布や地域行事の情報提供等で日頃から協力を得ている。食材購入も近隣の商店を利用するなど、地域との関わりを継続しているが、現在は、感染予防の為に地域との交流等は自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	飛騨市介護サポーター対象施設として登録し、ボランティア等を受け入れるようにしている。本年度はコロナ禍のため受け入れは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍のため、運営推進会議を書面にて開催。アンケートを家族や地域の方から頂きサービスの向上に努めている。	感染予防のため、運営推進会議は書面会議としている。入居者状況、活動報告、事故報告等に併せて家族アンケートを実施し、結果を次の書面会議時に送付している。アンケート自由記述の内容も開示し、利用者サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書面にてホームの現状や活動の報告を行っている。分からないことがあれば市町村担当者等に相談連絡を取っている。	新型コロナの影響で大変な状況であったが、行政の協力を得て、敷地内に、もう一つのグループホームを立ち上げている。行政主催の研修会、連絡会議に出席し、地域高齢者の課題等についても事業所の役割が活かせるよう取り組んでいる。行政の情報配信を運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず夜間のみとしている。身体拘束等廃止委員会を設置し、委員会も開催し全職員に伝達・周知している。	敷地内の2つのホームが合同で身体拘束委員会を定期的に開催し、身体拘束ゼロのケアを実践している。具体例を挙げ、ヒヤリハットの発生原因、対応方法について、分析や対策を話し合い実践につなげている。また、拘束をしないことで起こるリスク回避についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待対応の研修に参加し、他の職員にも共有出来るように会議を開催している。今年はコロナ禍の影響で研修に参加できていないが、開催あれば参加予定している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族・関係者へ対応できるように制度についての研修会開催あれば参加予定している。運営推進会議等、必要に応じアンケートも取っている）		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者または計画作成担当者が説明を行なっている。本人にも契約前にホームを見ていただき不安なく入居して頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族にホームでの様子など話をしながら意見や要望を伺っている。電話でも連絡を取り合い家族から意見や要望を頂いている。	現在、新型コロナ感染予防対策として、面会時間の短縮や、駐車場での対面など、制限のある支援ではあるが、工夫をしながら利用者と家族をつないでいる。利用者の受診時や衣替え、排泄用品の補充等で、家族の来所時に意見や要望を聞くよう努めている。毎月の便りには、担当者のメッセージと共に、利用者の暮らしぶりがわかる写真を掲載している。	毎月発行の便りは、利用者の笑顔や暮らしぶりがわかる写真を掲載している。さらに家族と支援内容を共有できるよう1週間の献立を写真付きで記載したり、外部評価結果を報告して、事業所の優れている点や努力している内容等を伝え、信頼関係強化に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているカンファレンスや毎日の申し送り時に職員の意見や提案を聞き運営に反映している。また職員からのアイデアなどあれば連絡ノートに記入しいつでも提案出来るようにしている。	代表と管理者は開設時から共に連携し、職員会議や日々の申し送り時等では、ボトムアップの体制に努め、職員の意見を尊重しながら運営している。新たに隣地にグループホームが開設したことで、事業所間での職員協力体制が生まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休休暇を正社員・パート関係なく取得してもらっている。また希望の休みも取れるようにし、働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人が受けたい研修があれば参加できるように勤務を調整し受講している。研修費についても個人資格以外では法人負担としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、他のグループホームを訪問して、サービスの質、ケアの向上等に向けた情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族と本人と一緒に面談を行い、生活面や身体面の困りことや不安について細かく聞き取りを行いホームでの生活について丁寧に説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面談したり、見学してもらいホームの状況や運営などについて細かく説明している。また日頃から電話で連絡も取りあっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談及び担当ケアマネからの情報を統合し、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力量や希望などを見極め、食事の盛り付け・食器洗いや食器拭き、買い物などもスタッフとともに行うことで良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などの外出は家族にお願いし一緒に出掛けていただいている。また日用品なども家族に買ってきてもらい本人と家族の絆をつくっている。保つ機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも友人や近隣の方に気軽に会いに来てもらえるよう努めている。現在は感染症のこともあり面会時間を短縮し、居室で会話をしていただくようにお願いしている。	親戚や友人の訪問も多く、職員が笑顔で迎え、面会後には、再来の声掛けをしながら見送っている。現在は、コロナ禍にある為、面会や外出を自粛しているが、職員が利用者の馴染みの人や場所を話題にしながら、収束後の楽しみにつなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリェーションや共同作業の一緒にいる時間を多く取っていることで入居者同士の関わりを取れるように支援勤めている。隣のグループホームとの交流も行い関わりを増やせるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族や関係機関からの問い合わせには柔軟に対応できるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りを行いながら、できることは継続できるよう、やってみたいことは少しずつでもできるよう支援し、日々の生活が充実するように努めている	前回の取り組み課題であった生活支援のマンネリ化打破に向け、職員一人ひとりが利用者本位の支援を常に意識するよう心がけている。利用者と今まで以上にコミュニケーションを図り、その人の価値観や思いを受け止めながら、利用者が自分らしく暮らせる支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、必要によっては自宅や周辺の生活環境を見たり、本人や他の入居者とドライブで訪れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や毎日の引継ぎ・カンファレンスを通じてスタッフ間で情報を共有し変化や気づきを記録に残している。また、毎日の関わりによって本人の気持ちなど把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人、家族の思いを実現できるよう話し合って生活に活かしている。	代表がケアマネジャーでもあり、入居時の契約説明から家族と面識がある。利用者と家族が望む暮らしを実現させるため、必要な支援を職員と話し合いながら介護計画を作成している。作成後には、再度家族と意見交換の場を持ち、事業所として、家族に望むことも伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望や発言など日々の記録に残し、スタッフ間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在は感染症のため、外出の行事が立てれていないが、季節を感じれる外出（花見・紅葉）など検討している。室内で行える行事（誕生会など）は計画し行っている。また居室に関して家族の泊まりなど自由に使用できるよう対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	飛騨市の介護サポーター制度に登録している。また、地域ボランティアの方も受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行により、かかりつけ医へ受診してもらっている。また、往診の方については主治医にきてもらい健康管理を受けている。	契約時に受診支援について説明している。利用者は従前のかかりつけ医を継続し、家族同行で受診している。家族の同行が困難な場合は、往診対応ができる医師に変更することもある。看護師の職員が日々、利用者の健康管理に努め、緊急時には医師と連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは本人の体調の変化などの気がつきがあれば、看護師に報告し対応している。必要に応じては家族に連絡し、受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院へ入院前情報を提供している。 退院前に院内訪問し、関係者から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における（看取り）指針についての同意を家族にいただいている。	契約時に重度化や終末期の方針を本人と家族に説明し同意を得ている。常時、医療行為が伴う場合は、早期に利用者、家族、関係者が話し合いながら方針を決定し、適切な対応に努めている。自然な看取りを行う場合は、職員のチームワークを強化し支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講している職員が何名かいる。また講習を受けていない職員にも受講をしてもらう計画もしている。同じ敷地内のグループホームにAED設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導訓練、通報訓練、消火訓練を定期的に行っている 停電時に使用出来る非常用電気が施設の廊下に設置してある。 また災害時の避難場所についてもホームの2階（物置き）や隣の施設の2階など垂直避難なども行えるようにしている。	課題であった災害時の家族や地域との連絡方法や職員の役割、連絡網の作成等、職員会議や運営推進会議で話し合い、取り組んでいる。隣接のグループホームと連携し、2階への垂直避難も視野に入れ、非常用電気、水、コンロ、灯油などでライフラインを確保し、食料品やオムツ等も備蓄している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有し、その人にあった声掛けが出来るよう対応している。	職員は、常に利用者一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。また、生活の主体は利用者であるとし、手を出しすぎないよう心がけ、残存能力を活かしながら、安心して自立した生活を送れるよう支援している。入浴や排泄介助には特に羞恥心に配慮しながら介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に添えるような暮らしが出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操や散歩など、その日の体調、気分をうかがい、無理なく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにタンスの整理をし衣替えをしもらっている。また家族が本人の散髪されたり美容院に連れていってもらったりと清潔な身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、または食後の食器洗い・食器拭き・お盆拭きの片付けなども一緒に行い支援している。食事なども入居者の好きな食べ物など聞いたりし楽しんで食べれるようになメニューも考えている。	利用者も食事の準備作業に関わり、米研きや野菜の皮むき、包丁使い、食器洗い、配膳下膳、後片付け等を職員と行うことが日課となっている。食前の嚥下体操や食後の口腔ケアも定着している。また、利用者が敷地内のミニ農園で野菜を育て、食材にするまでの工程を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減など気にしながら食事量等を調整している。水分量については生活記録にも残し水分が摂れているのか記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし行ってもらっている。介助の必要な方は職員が対応している。夕食後には義歯の薬剤洗浄を行い清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導の声掛けをし排泄をうながしている。汚れ等多くある方についてはパットの確認をし,交換をうながして清潔で過ごせるよう支援している。	職員は、個々の排泄パターンを把握し、声掛けと誘導でトイレでの排泄を習慣化できるよう支援している。また、排泄後の処理やパッド交換が出来ているかを確認し、必要以上に手を出さず自立につなげている。夜間はポータブルトイレを利用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜やヨーグルト等を提供したり、毎日の体操で体を動かし、自然な排便ができるよう努めている。また散歩や体操の時間を増やし便秘予防の対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調等に配慮しながら出来るだけ本人の希望される時間帯に入浴してもらっている。	週2回の入浴を基本にし、利用者の体調と希望に応じ、柔軟に対応している。職員はコミュニケーションを図りながら、必要な介助だけを行うよう心がけ、自立の人はドア越しで見守るなど、個々の意向に沿った入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室は自由に行ききできるようにしている。夜間についても自分が休みたいときに居室に行き睡眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常勤看護師が服薬管理をしているが職員全員が服薬内容、身体状況を把握できるように情報を共有している。		
48	※	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や後片付け等、一人ひとりに役割を見つけ、充実した生活が送れるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、季節に応じて桜見や紅葉見などにも出掛けている。今年度は近くの美術館や施設 にも出掛けている。本人にも行きたいところなども聞き、馴染みの場所などにも出かけている。	近くの神社への散歩や季節の花見、地域のオレンジカフェや美術館などへ出掛けていたが、新型コロナ感染予防の為、人との接触を避けながらの支援となった。車窓から季節の景色を楽しむドライブや、庭のベンチでの外気浴、畑仕事等で外気に触れ、気分転換を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望で少額を手元に持っている方もみえる ホームで現金を預かる場合には金庫に保管し出納帳にて管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参してみえる方もいる 希望があれば相手先の都合を考え、電話を使ってもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、玄関、扉を開放し、外の空気・光を取り込んでいる。温度調整なども体調に関わってくるので特に配慮している。季節を感じてもらえる作品作りをしている。	古民家を改修したホームは、廊下と食堂兼居間の床が畳敷きになっている。障子、軒先、縁側があり、昔ながらの暮らしがそこにある。換気の為、寒暖差も考慮しながら空調管理に努め、適宜、窓を開放し空気の入れ替えをしている。椅子やソファー、机、小テーブルがあり、利用者は自分の好きな場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルの配置を工夫し、グループ分けができるようにしている 疲れた時などは居室で休んでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自宅で使用していた馴染みのものをもってきてもらい使用している。ご家族様の写真なども飾り安心できる空間になるよう努めている。	居室は全室畳敷きであり、扉には、自室とわかるように名前のプレートが貼ってある。ベッドは低床や電動仕様など、利用者の状態に合わせて提供している。使い慣れた物やテレビを持ち込み、居心地良く暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の手すりの高さを少し低く設置し、使いやすいようにしている 居室入り口やトイレにはプレートを設置し自室とわかりやすいようにしている		